「日々の理科」（第 2016 号）　2020,-1,16

「小川町の火災（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

私の両親が住む小川町のマンションは、とても便利な場所にある。小川町駅（東武東上線・八高線）、町役場、スーパー、セキ薬局、華屋与兵衛、バーミヤン、コンビニ、小川警察署、日赤などの主要施設に、すべて徒歩で行ける。現在父（昭和８年生まれ）は元気で車も運転する。むしろ毎日街中を運転するように勧めている。しかし、将来車の運転ができなくなっても、自力で生活できるよう、この立地のマンションを選んだのだ。加えて、親戚の多くが小川町やその周辺に住んでいるのも心強い。

その小川町のマンションのベランダには、天体観察用のカメラが設置してあり、東京から遠隔操作をして撮影できるシステムになっている。マンションの部屋は６階で、北東～南～北西までの広い範囲の空を観望ｄきる。写真は一昨年の冬に、月と金星が大接近した時の様子である。手前は小川町の市街地、遠くの山は小川三山（左から堂平、笹山、笠山）その上に夕暮れの西の空が写っている。

カメラはパナソニック製のネットワークカメラで、ズーム機能や暗い被写体の撮影に強い。写真は月齢５の月とその地球照、それに金星が鮮明に写っている。

こちらは、日本では非常に観測が難しい「月齢１の月」この糸のように細い月も、最大ズームで鮮明にとらえることができた。

ところが去年の 12 月下旬、このカメラがとんでもない（驚くべき）現象をとらえていた。